

- ・SOGI と家族づくり (藤井ひろみ・大手前大学, 布施香奈・国立社会保障・人口問題研究所)
- ・SOGI とお金 (平森大規・米国ワシントン大学)

4. 質疑応答

(布施香奈 記)

2021年日本地理学会春季学術大会

2021年日本地理学会春季学術大会が、3月26日(金)から3月28日(日)にかけて、東洋大学をホスト校としてオンラインで開催された。166件の一般発表、52件のポスター発表、4つの公開シンポジウムが行われた。このうち人口に関する発表は、一般発表の「人口・行動」セッションの中で、筆者によるものも含めて以下の3件がなされた。この他にも、定住をめぐる意識の変容や社会調査の方法論など、関連分野における興味深い発表がみられた。

柴辻優樹 (慶應義塾大学・学振 DC) 「東日本大震災後における母子世帯の被災地からの居住地移動」
久井情在 (国立社会保障・人口問題研究所) 「大都市部・中小都市部・農山漁村地域への将来の人口移動—「第8回人口移動調査(2016)」の結果から—

勝又悠太郎 (広島大学) 「インド・ウッタル・プラデーシュ州における人口動態の特徴—センサスデータを用いた分析—

(久井情在 記)

第54回国連人口開発委員会

2021年4月19日(月)から23日(金)の期間、米国・ニューヨークの国連本部とオンラインのハイブリッド形式にて第54回国連人口開発委員会 (CPD: Commission on Population and Development) が開催された。新型コロナウイルス感染症により、昨年4月の第53回の開催は2日間に短縮され、実質的には延期に近い状態で、第53回のテーマ「人口、食糧保障、栄養と持続可能な開発」がそのまま今回のテーマとなった。今年は9月に国連食料システムサミット、12月には東京栄養サミットが開催される運びであり、それらに対する人口分野からのインプットとなるのが今回のCPDであった。

開会式は国連会議場での開催が、国連TVにて配信される、という形で行われ、モハメド国連副事務総長、バリー・ブルキナファソ外務大臣(録画)、カネム UNFPA 事務局長、屈冬玉 FAO 事務局長、ウングボ国際農業開発基金 (IFAD) 総裁、ハリス国連事務次官補(経済開発担当)、カリバタ国連食料システムサミット事務総長特使(録画)の挨拶の後、チョーデン・ブータン大妃が基調講演(録画)を行った。議長はブルキナファソのティアレ大使、副議長は、トルコ、レバノン、ルーマニア、エルサルバドルから選出された。

本体会合はオンラインにて、パネルディスカッション、ステートメント読み上げ、という形式で行った。テーマである人口、食糧保障、栄養と持続可能な開発に関するパネルディスカッションは3種類行われ、UNFPA、FAO、WFP、WHOなどの国連機関、大学・研究機関、市民団体の専門家がパネリストとして登壇・報告し、オンライン参加者との議論がなされた。

FAOの「世界の食料安全保障と栄養の現状」報告書(2020)によれば、世界の栄養不足の人の割合は、2014年までは低下の一途であったがそれ以降わずかながらも増加に転じている。アフリカをは